



Sumiyoshi-jinja Osaka
Brief history and details of the festivals.

住吉大社御由緒略記

世吉大雄論由新編

住吉大社御由緒略記

官幣大社住吉神社

攝津國 大阪府東成郡住吉村鎮座

御祭神

第一本宮 底筒男命

第二本宮 中筒男命

第三本宮 表筒男命

第四本宮 息長足比賣尊

御由緒

伊弉諾尊既に還りて追ひ悔ひて曰く吾前に不須凶目汚穢き處に到る故當に吾身の濁穢はしきものを滌ひ去てんとたまひて則ち筑紫の日向の橘の小戸の櫛が原にいたりまして潔ぎ祓ひし給ふ遂に身の所汚きものを盪滌ぎ給はんとして乃ち興言して曰く上瀬は是太だ疾し下瀬は是太だ弱しと曰ひて便ち中瀬に濯ぎ給ふ因りて以て生める神を號けて八十枉津日神と曰す次に其枉れるを矯さんとして生める神を號けて神直日神と曰す次に大直日神又海底に沈み濯ぐ因りて以て生める神を號

199

けて底津少童命と曰す次に底筒男命又潮中に潜ぎ濯ぐ
因りて以て生める神を號けて中津少童命と曰す次に中
筒男命又潮上に浮き濯ぐ因りて以て生める神を號けて
表津少童命と曰す次に表筒男命凡べて九はしらの神有
す其底筒男命中筒男命表筒男命は是即ち住吉大神なり
息長足比賣尊は神功皇后の御事なり
神功皇后は開化天皇五世の孫にて仲哀天皇の御后なり
御心ばへめてたく御容貌世にすぐれ給まへりき仲哀天
皇の御時八年と申しに筑紫にて神この後に告げて宣
はくさまざまの寶多かる國あり新羅といふ行き向ひ給
はゞおのづから隨ひなんと宣ひき然るに其事無くて止

みにき皇后今日はく天皇神の教へに隨ひ給はゞ世を保
ち給ふ事久しからずなりぬいと悲しき事なり何れの神
の崇りをなし給へるぞと七日祈り給ひしに神託宣して
曰はく伊勢の國五十鈴宮に侍る神なりとあらはれ給ひ
しによりて皇后浦に出でさせ給ひて御髪を海にうち入
れさせ給ひて此事かなふべきならば吾が髪分れて二つ
になれと曰ひしにやがて二つになりనికి即ちみづらに
結ひ給ひて臣下にのたまはく軍を起こす事は國の大事
なり今この事を思ひ立つ偏に汝たちに任す吾女の身に
して男の姿を假りて軍を起こす上には神のめぐみを蒙
り下には汝たちの助けを頼むとて松浦といふ河に在し

て祈りて曰くもし西の國を得べきならば釣に必ず魚を
得んとて釣りし給ひしに年魚を釣りあげ給ひにき其後
諸國に船をめし兵卒を集めて海を渡り給はんとてまづ
人を出だして國の有り無しを見させ給ふに見えぬよし
を申す又人を遣はして見しめ給ふに日數多く積りて歸
り参りて西北の方に山あり雲かゝりて幽かに見え侍り
と申し、かば皇后其國に向ひ給はんとて石を取りて御
腰にさし挿み給ひて事終りて歸らん日此國にして生み
奉らんと祈り誓ひ給ひにき此ほど八幡を孕み奉らせお
はしましたりしなりさて新羅へ渡り給へりしに海の中
さまぐの大なる魚ども船どもの左右に添ひて大なる

風吹きて速かに到る船に隨ひて波荒く立ちて新羅の國
の内へたゞ入りに入り來る時に彼の國の王おぢ恐れて
臣下を集めて昔よりいまだ斯かる事なし海の水既に國
の内に満ちなんとす運の盡き終りて國の海になりなん
とするかと歎き悲しむ程に軍の船海に満ちて鼓の聲山
を動かす新羅の王これを見て思はく是より東に神國あ
り日本といふなり其國の兵卒なるべし我立て合ふべか
らずと思ひて彼王すゝみて皇后の御船の前に參りて永
く隨ひ奉りて年ごとに貢物を奉るべしと申しき皇后其
國に入り給ひてさまざまの寶を船八十に積みて奉る高
麗百濟といふ二つの國この事を聞きておぢ恐れて進み

隨したがまつりぬかくて筑つく紫しに歸かへり給たまひて皇子わうじを生うみ奉たてまり給たま
ひき是これぞ八幡はちまんの宮みやにはおはします是これを胎はらわちのすめらみこと
皇后くわうごうは攝政くつしやう六十九年ねん四月げつに大和やまとの雅櫻わかさくらの宮みやに崩ほうじませ
り御歳みとし百一歳さい其十月ぐわつに狹城さの盾列たなみの陵みさぎに葬なごめ奉たてまれり

御ご鎮ちん座ざ

神功皇后じんこうくわうごう攝政せつせい十一年ねん辛卯かのと四月ぐわつ上卯かみ日の御鎮座ごちんざなり
皇后くわうごう三韓さんかん征伐せいばつ御凱旋ごがいせんの時とき住吉すまよしの三神さんじん誨をしへて宣のたまは

「吾わが和魂にぎみたまは大津おほつ渟ぬ中倉なくらの長峽ながをに居をらしむべし便すなはち往ゆき
來こふ船ふねを看みん。」

とありしかば其神教そのみおしへに隨したがひて此地このちに齋いっき祀まつり給たまひしな

り後に皇后をも奉祀して四座となれり

御社殿

住吉造り特別保護建造物

攝社御祭神

大海神社 豊玉彦 豊玉媛 式内

志賀神社 海少童神 三座

若宮八幡宮 應神天皇 建内宿禰

船玉神社 天鳥船命 猿田彦命

末社御祭神

侍者社 田裳見宿禰 市 姫

新宮社 市戎社 后土社 貴船社 立聞社 井戸社 海士子社 八所社 楯の社 鋒の社

伊弉册尊 事解男 事代主尊 土御祖神 高麗神 天兒屋根尊 水波乃女命 鵜草葺不合尊 素盞男命 經津主命 武甕槌命

國常立尊(星之宮合祀)

速玉男 伊弉諾尊

種貸社

宇賀魂神

斯主社

津守國盛靈

津守國基靈

高木氏祖靈

大領氏祖靈

神奴氏祖靈

今主社

津守國助靈

楠珞社

宇賀魂神

兒安社

興臺産靈神

境外末社

御祭神

淺澤社

市杵嶋姫命

多支津姫命

多支利津姫命

(本社ノ南方)

大歳社

御年神

(本社ノ南方)

住吉神社

住吉四柱大神

(大阪築港ニ鎮座)

年中行事

二月	二月	一月十三日	一月十二日	一月十二日	一月七日	一月四日	一月三日	一月一日
祈年祭	節分祭	御結鎮祭	若宮八幡宮祭	手斧始御式	白馬節會	踏歌祭	元始祭	朝饌祭
	九月廿四日	八月一日	七月卅一日	月齡六月廿四日	七月	六月卅日	六月十四日	五月上ノ卯日
花摘祭		南祭(堺渡御)	宵宮祭	神輿洗神事	北祭(大阪築港船渡御)	御例祭	御田植神事	卯之葉ノ神事

十月十七日

新嘗祭
寶乃市神事

十二月廿六日

除夜祭
煤拂御式

十二



